

一般社団法人 日本リモートセンシング学会 学会誌投稿規定
日本リモートセンシング学会誌編集委員会

昭和56年5月6日 制定
平成23年12月1日 改定
平成24年7月18日 改定
平成26年4月18日 改定・施行

1. 日本リモートセンシング学会誌 (Journal of the Remote Sensing Society of Japan) は年4回以上発行され、以下の内容より構成される。
 - a. 論文 リモートセンシングに関する各種の研究、調査、試験結果の報告で新規性、応用性のあるもの
 - b. 小論文 速報性を重んじる短い論文、あるいは既に掲載された論文に対する付加内容の性格を有する短い論文
 - c. 技術報告 リモートセンシングに関連する調査実例、技術経験あるいは提案など会員の参考になると思われるもの
 - d. 総説（レビュー） ある分野の論文や学説などをレビュー、解説したもの
 - e. 討議 発表された論文、小論文、技術報告、総説に関連した討議者の研究・技術成果、および質問または意見。原則として、論文などの発表後、6ヶ月まで原稿を受け付ける。
 - f. 速報 リモートセンシングに関連する状況報告的なもの
 - g. 解説 リモートセンシングに関連する特定技術、トピックスについて説明するもの
 - h. 講義 リモートセンシングに関連する理論や技術などについてテーマを定めて系列的に説明するもの
 - i. 資料 a～hに属さないもので会員の活動の参考になるもの
 - j. 巻頭言 リモートセンシングに関連する事項について大所高所から述べたもの
 - k. 研究室紹介 学会員の所属する研究室等の活動紹介
 - l. 事例紹介 リモートセンシングに関連する調査実例や技術経験で、特に実際の業務に於いて適用した例で会員の参考になると思われるもの
 - m. 学位論文紹介 学会員の学位論文の紹介
 - n. 研究会だより 学会に設置されている研究会の活動紹介
 - o. 会員からの声 学会の活動について、その他広く会員から寄せられた意見
 - p. 表紙解説
 - q. ニュース
 - r. 書評 会員の参考になると思われる文献の紹介
 - s. 学会だより 学会の事業、運営に関する報告、関連会議日程紹介など
 - t. 掲示板 教官公募、関連学会シンポジウム開催のお知らせなど編集委員会が適当と認めたもの
 - u. その他 上にあげたもののほか、編集委員会が適当と認めた事項
2. 論文、小論文、技術報告、総説（レビュー）は他の刊行物に未発表のものに限る。論

文、小論文は、オリジナリティについて重視した査読を行う。総説（レビュー）は主として記載情報の重要性についての査読を行う。技術報告については学会誌にふさわしい記事であるかどうかの査読を行う。

3. 投稿原稿の筆頭著者は原則として本会会員とする。ただし、筆頭著者が会員外の投稿も認めるが、別途定めるページチャージを負担しなければならない。依頼原稿については本項の適用外とする。
4. 原稿の投稿は、次の方法によるものとする。
 - 4-1 論文、小論文、技術報告、総説（レビュー）、速報、解説、事例紹介の場合は、学会サイト下記URLのオンライン投稿審査システムにしたがう。
<http://www.rssj.or.jp/gakkaisi/gakkaisi.htm>
 - 4-2 上記以外の場合は、投稿カードのファイルを添付して次の電子メールアドレスに原稿を投稿する。
jrssj@rssj.or.jp
投稿カードは学会サイト下記URLから入手できる。
http://www.rssj.or.jp/www/edit/document/RSSJEDIT_M_003.doc
5. 掲載の決定：編集委員会が掲載の可否を決定する。掲載は原則として受理順とする。
6. 校正：著者校正は原則として初校のみとする。著者校正においては、誤植の訂正程度に留める。
7. 著作権：日本リモートセンシング学会誌に掲載される論文等の著作権は、（一社）日本リモートセンシング学会に属する。ただし、原著者が出典を明示しての再利用は妨げない。また、掲載論文等の一部又は全部を当学会が電子的に蓄積し、情報提供サービスにより公開することがある。
8. 投稿料：執筆要項に定める規定以内の原稿については無料とする。ただし、カラー印刷や特殊な印刷用紙の指定等の場合には実費負担とする。
9. ページチャージ：投稿原稿の筆頭著者が本会会員外の場合は、刷り上がり1ページにつき5,000円の負担とする。
10. 別刷料：別刷は実費負担とする（50部単位）。別刷は全て表紙付きとする。
11. 執筆要領：別途に定める。

一般社団法人 日本リモートセンシング学会
日本リモートセンシング学会誌 執筆要領

平成19年1月10日 改定
平成24年7月18日 改定
平成24年9月10日 改定・施行

1. 言語

日本語または英語を使用すること。

2. 原稿の作成と提出

- (1) A4規格の用紙を用いてダブルスペースで作成する。1段構成とし、上下左右に少なくとも 25 mmのマージンを確保すること。
- (2) WordまたはPDFの「テキスト」形式のファイルを提出すること。
- (3) 査読者の便宜を図るため、ページ番号および本文に行番号を付けること。

3. 論文等の長さ

刷り上がり1ページの字数は日本語の場合26字×50行の2段構成、英文の場合52字程度×50行の2段構成で、サイズは250mm×175mm。

- (1) 論文 6ページ以上12ページ以内
- (2) 小論文 6ページ以内
- (3) 速報 4ページ以内

(4) その他は内容を十分に伝えることの出来る最適の長さとする。

なお、ページ数超過分の印刷については実費を徴収する。但し、編集委員会が認めた場合はこの限りではない。

4. 論文・小論文の構成

論文・小論文の原稿は、次の順序で作成すること。

- (1) 論文題名 (和文)
- (2) 著者名 (和文)
- (3) 論文題名 (英文)
- (4) 著者名 (英文)
- (5) e-mailアドレス
- (6) 所属および住所 (和文) (英文原稿の場合は不要)
- (7) 所属および住所 (英文)
- (8) 概要 (英文、300語以内)
- (9) 英文キーワード (4~5ワード)
- (10) 本文 (和文)
- (11) 謝辞 (和文)
- (12) 引用文献
- (13) 付録 (和文)
- (14) 概要の和訳 (英文原稿の場合は不要)
- (15) 著者紹介 (和文) (各著者300字以内)
 - ・著者紹介用写真は採録決定後に提出すること。
 - ・写真の掲載は必須ではない。
- (16) すべての図、写真、表
 - ・図、写真、表は本文原稿中に挿入せず、別のシートとして作成すること。

・表題は原則として英語とする。

なお英文原稿の場合は、上記の構成で、(9)～(13) および (15) を英文にすること。

5. 用字と用語

(1) 特殊な用語や略語が多用される場合は、参考文献の次に用語・略語の説明をまとめることが望ましい。

(2) 句読点は、句点「。」と読点「,」を用い、それぞれ全角を用いること。(なお、参考文献リストおよび英文の場合は、半角の「.」、「,」とし、その後に単語が続く場合は、半角スペースをひとつ入れること。詳細は付録参照)

6. 見出しについて

(1) 大見出し“1.”など センタリングする。

(2) 中見出し“1.1”など 左つめ

(3) 小見出し“1.1.1”など 左つめ

これより下位のレベルは、著者の任意とする。

7. 図、写真、表

(1) 全ての図、写真、表は、本文中で引用すること。

(2) 本文中に、たとえば

[Fig. 1]

のように、おおよその図表挿入位置を明記すること。

(3) 図表の中の用語および説明は、原則として英語を用いること。

(4) 図、写真、表は、論文の最後にまとめること。

(5) 図表の説明

(例1) 表および図(カラーを含んで本文中に挿入する場合)

表のとき : Table 1、Table 2、……、Table 10

図または写真のとき : Fig. 1、Fig. 2、……、Fig. 10

カラー写真等で、本文中ではなく論文最後にまとめて掲載する場合 : Plate 1、

Plate 2、……、Plate 10

(例2) 文章中の表現……をFig. 1、Table 1およびPlate 1に示す。

Fig. 1. Concept of remote sensing systems.

Plate 1. Outlook of the sensor.

Table 1. Summary of spaceborne passive sensors.

Fig. 10. SST vs. brightness temperature.

Table 10. List of dataset used in this study.

Plate 10. SAR image of the region.

8. 引用文献

(1) 引用文献の範囲 : 原則として公開出版物の範囲に留めること。

(2) 引用の仕方

本文中の該当する箇所に半角で“1)”等の上つき番号を出現順に付けて引用すること。

(3) 引用文献リストの書き方

引用文献リストは付録の形式を参考にして作成すること。著者が複数の場合も、原則として全著者の氏名(英語の場合は氏とイニシャル)を記入すること。英文論文標題中の単語については、文頭および固有名称などで必要な場合以外は小文字を使用すること。

(4) 雑誌名の略記

通常、学術雑誌名は(特に英文雑誌などでは)かなり長いので、雑誌名の理解を妨げない範囲で略記を行なってよい。また編集段階で学会側で略記形式に変更することがある。

(5) 査読者が入手しにくい引用文献は、編集委員会の判断でコピーなどの提出を求めることがある。

(6) ウェブサイトを引用する場合は、最終アクセス日付を (2012. 8. 1) のように記載すること。

9. 他誌から本誌に引用する場合の注意

(1) 引用する文献の著作権に十分注意すること。

(2) 図面・表・写真を他の図書、雑誌などから引用する場合には、著者の責任で事前にその著者および出版社の了承を得ること。

付録 引用文献リストの書き方 (ガイドライン)

1. 雑誌

- 1) 著者名： 標題, 雑誌名, 巻(号), pp. をつけて始め一終りのページ, 年(西暦).
- 1) 東京太郎, 大阪次郎: リモートセンシング学会誌の書き方, 日本リモートセンシング学会誌, 18(1), pp. 20-27, 1999.
- 1) T. Tokyo and J. Osaka : How to write RSSJ, J. Remote Sens. Soc. Japan, 18(1), pp. 20-27, 1999.

2. 著書、編書

- 2) (編) 著者名： 書名, 発行所, 発行都市名, 発行年(西暦).
- 2) 東京太郎(編) : リモートセンシング技術辞典, リモートセンシング出版, 東京, 1999.
- 2) T. Tokyo (ed.) : Handbook of Remote Sensing, RSSJ Publ. Co., Tokyo, 1999.

3. 著書の一部を引用する場合

- 3) 著者名： 表題, 書名, 編者名, 章番号をつけて始め一終りのページ, 発行所, 発行都市名, 発行年(西暦).
- 3) 大阪次郎: 受動リモートセンサ, リモートセンシング技術辞典, リモートセンシング出版, 東京, 1999.
- 3) J. Osaka: Basic of Remote Sensing Handbook of Remote Sensing, T. Tokyo (ed.), Chap. 2, RSSJ Publ. Co., Tokyo, 1999.

4. 国際会議

- 4) 著者名： 表題, 会議名, 都市名, 国名, 論文番号, pp. をつけて始め一終りのページ, 月(英語)年(西暦).
- 4) T. Tokyo, S. Nagoya and J. Osaka: How to study microwave remote sensing, Proc. Inter. Symp. on Remote Sensing, Tokyo, Japan, B-11, pp. 3-13, Feb. 1999.

5. 国内大会、研究会論文集

- 5) 著者名： 標題, 学会論文集名, 分冊または号, 論文番号, pp. をつけて始め一終りのページ, 月(英語)年(西暦).
- 5) 東京太郎, 大阪次郎: リモートセンシングデータの表現, 日本リモートセンシング学会第26回学術講演会, A-1, pp. 4-5, May, 1999.

6. インターネットサイトの引用 :

- 6) <http://www.rssj.or.jp/gakkaisi/gakkaisi.htm> (2012. 8. 10)

7. 日本語での著者名に関する注意事項

姓と名の記述は、次の例にならうこと：東京太郎, 鈴木 正, 津 宏治, 林 誠, 森信一郎, 山田洋一郎